

平成31年度 ゲノム創薬基盤推進研究事業 公募説明会 Q & A

1

◆ 研究開発提案書について（公募説明資料15ページ）

Q 1. 研究目的で1000字以内、研究計画・方法で1600字以内となっている。ページ制限はないので、図、表を入れてページ数が増えても問題ないか。

A 1. 文字数が制限を超えなければ、ページ数が増えても結構です。

◆ 採択条件について（公募説明資料9～10ページ）

Q 2. C-1 に関して、臨床試験のみの提案は問題ないか。

A 2. 臨床試験のみの研究開発計画になっている応募課題は、本事業では採択の対象外となります。

Q 3. C-1に関して、臨床試験のデータを使用したファーマコゲノミクス研究課題は本事業の対象となるか。

A 3. 本事業の対象となります。

Q 4. C-2に関して、シーケンス解析を行わないで、既存のVUSデータを使い機能を明らかにする研究課題は本事業の対象となるか。

A 4. 既存データの活用推進は、本事業の対象となります。

Q 5. C-2 に関して、遺伝性疾患と明記しているが家族性腫瘍は含まれるのか。

A 5. 家族性腫瘍は遺伝性疾患であるため、本事業の対象となります。

2

Q 6. 臨床研究者や臨床研究グループ等と連携していることが望ましいとあるが、具体的にどのような研究機関の研究者を想定すればよろしいか。

A 6. バイオバンク・ジャパン、東北メディカルメガバンク機構、ナショナルセンター バイオバンク ネットワーク プロジェクト、各種コホートバイオバンク、臨床施設併設型バイオバンク等に所属する研究者を想定しています。

Q 7. 研究開発分担者（経費配賦なし）として、海外研究機関の研究者を研究体制に加えて問題ないか。

A 7. 問題ありません。

◆ 求められる成果について（公募説明資料11～12ページ）

Q 8. C-2に関して、ハイスループットスクリーニング系をゼロから立ち上げるのではなく、既に予備的に立ち上げているものを応用し、多数のVUSに機能的なアノテーションをつける研究課題は問題ないか。

A 8. ハイスループットスクリーニング系を予備的に立ち上げているものを応用し、多数のVUSに機能的なアノテーションをつける研究課題は、本事業の対象となります。

Q 9. C-2に関して、機能的アノテーションには、ウェット研究ばかりでなく、ドライ研究も必要と考える。ドライ解析中心のハイスループット研究は本事業の対象となるか。

A 9. 我が国では、ウェットでVUSへの機能を解析する研究が遅れています。そのため、公募要領にも記載していますとおり、本事業ではウェット解析中心のハイスループット研究課題を対象としています。

3

◆ データマネジメントプランについて（公募説明資料13～15ページ）

Q 10. 様式2（別紙）のデータマネジメントプランは、全ての項目を記載する必要はあるのか。

A 10. 応募の時点では、2019年度研究開発課題開始時のデータマネジメントプランの箇所のみを記載すれば問題ありません。

4